

2023年3月期 第1四半期決算

2022年7月29日

 大同特殊鋼株式会社

2022年度 第1四半期決算 (2022年4月～2022年6月)

■ 22/4-6決算の概要

- 自動車減産による数量減少の一方、半導体関連、産業機械部品の好調を受けて売上内容構成は良化。
- 継続的な原材料市況の悪化に対して、販売価格の改善に取り組んだ結果、営業利益は概ね前年同期並みの水準。

	(千t・億円)		前年同期差
	2021年度実績 第1四半期	2022年度実績 第1四半期	
鋼材売上数量	322	280	-42
売上高	1,312	1,377	65
営業利益	105	102	-3
経常利益	118	113	-5
特別損益	-	-	-
法人税他	▲ 42	▲ 14	28
親会社株主に帰属する 当期純利益	76	99	23

グループ通算制度
導入影響

■ セグメント別売上高・営業利益(前年同期差)

(億円)

	2021年度実績		2022年度実績	
	第1四半期		第1四半期	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益
特殊鋼鋼材	465	10	506	1
機能材料・ 磁性材料	479	71	544	75
自動車部品・ 産業機械部品	249	20	238	18
エンジニアリング	37	▲ 4	38	▲ 1
流通・サービス	82	8	51	9
合計	1,312	105	1,377	102

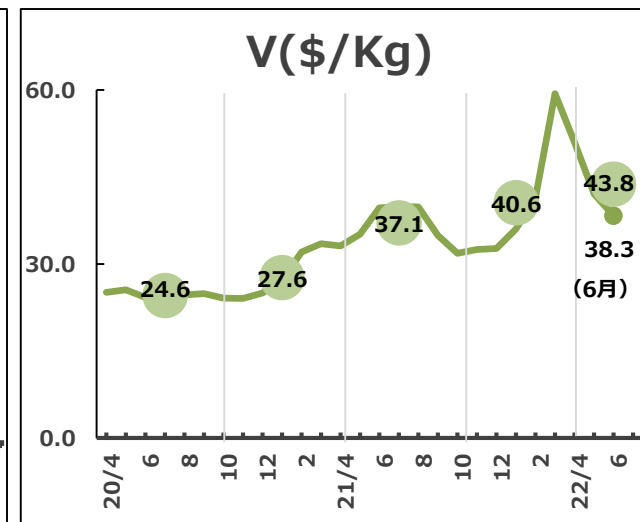
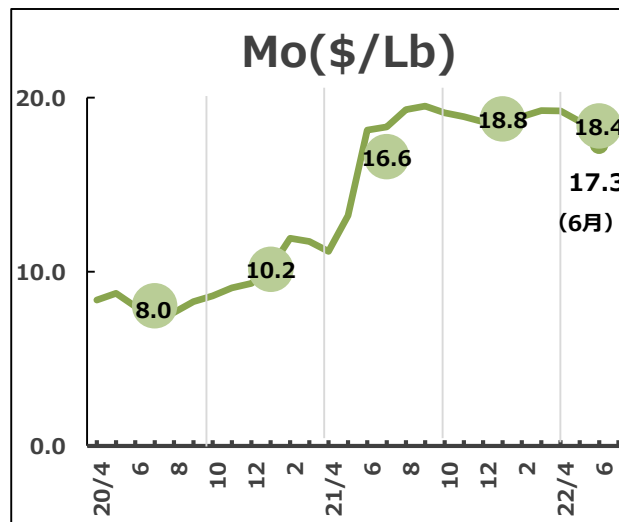
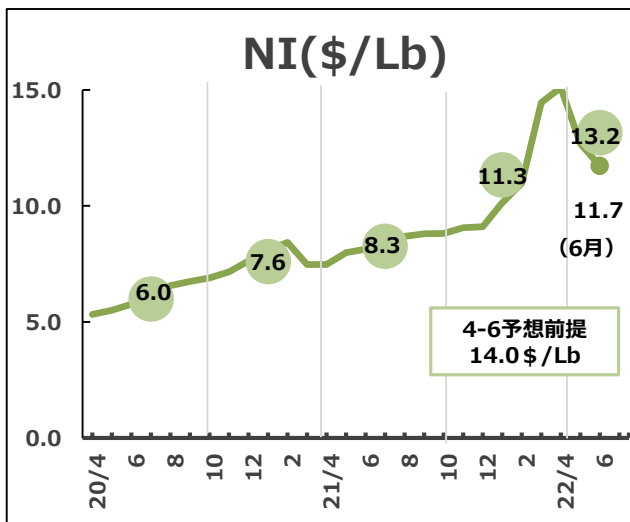
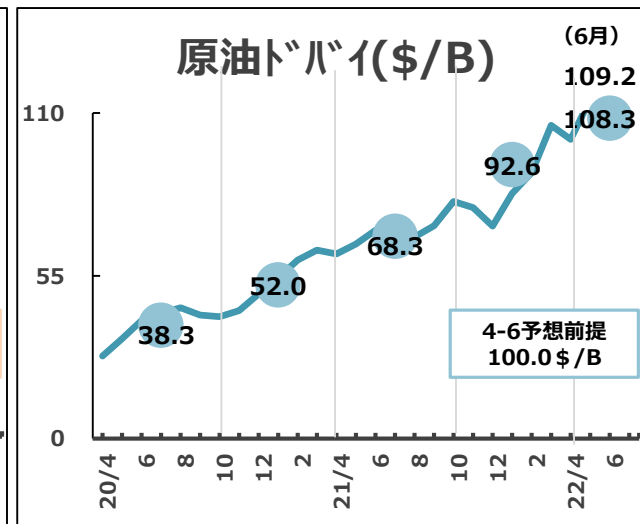
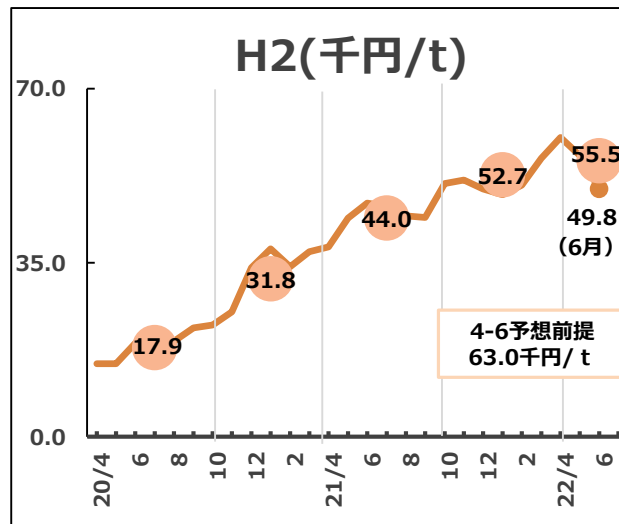
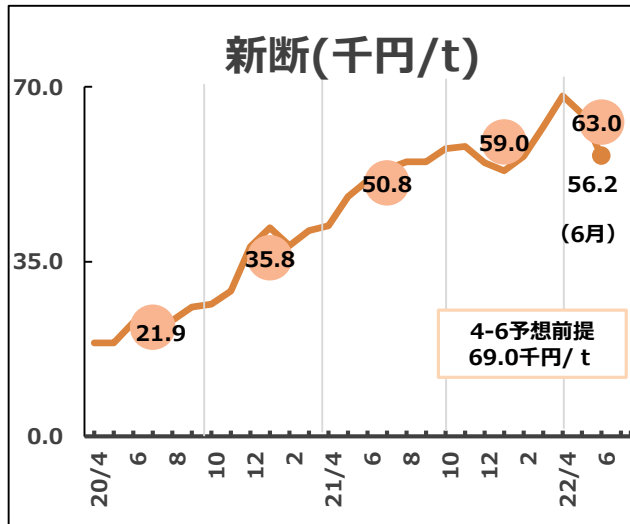
前年度差		前期決算期変更を除く 前年度差	
売上高	営業利益	売上高	営業利益
41	-9	55	-8
65	4	91	5
-11	-2	28	3
1	3	1	3
-31	1	15	3
65	-3	190	6

鋼材売上数量 (単体)	322	280
----------------	-----	-----

(千 t)

-42

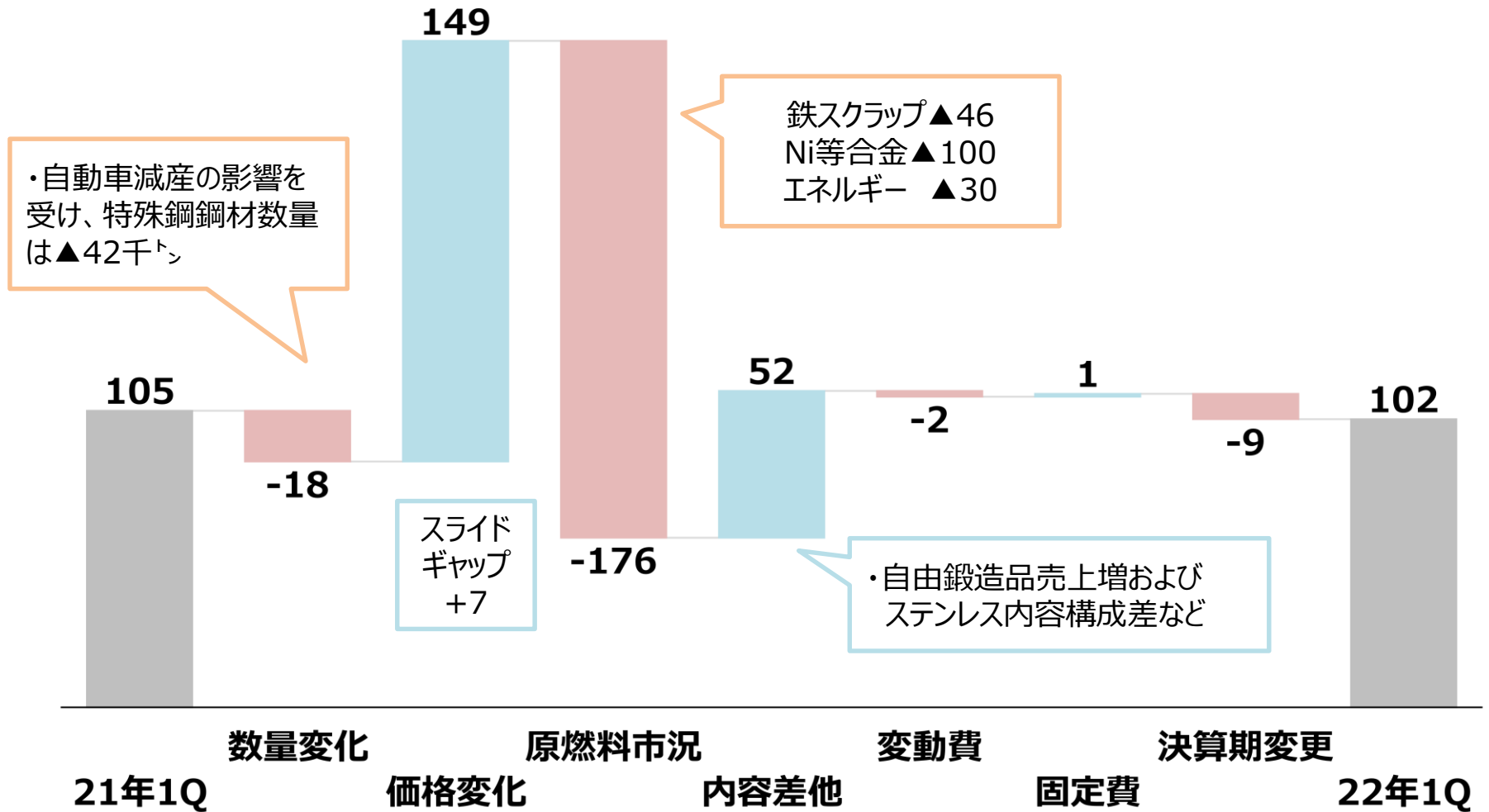
■ 原材料価格



22年第1四半期営業利益の変化要因(前年同期差)

営業利益変化要因

(億円)



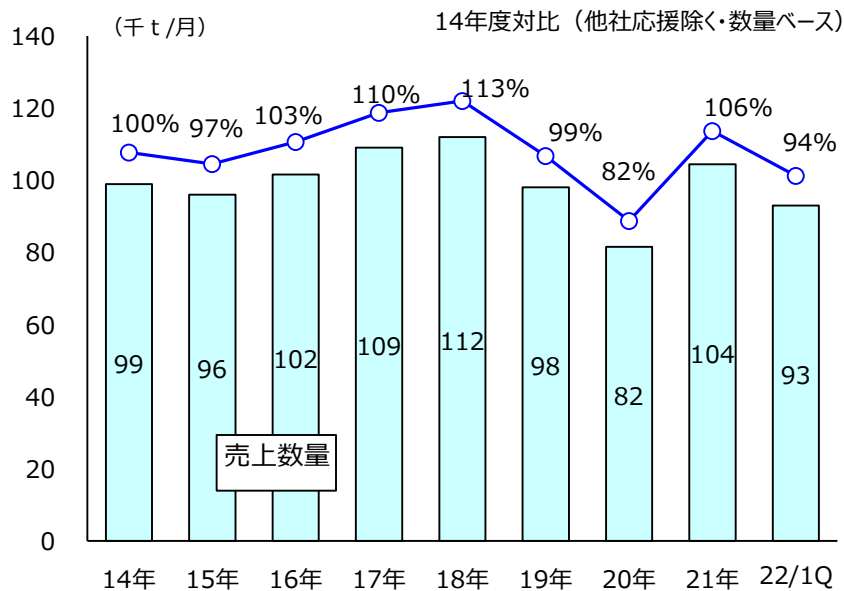
■ 特殊鋼鋼材概況

(億円)

	21年 1Q a	22年 1Q b	前年差 b-a	
売上高	465	506	(+55)	41
営業利益	10	1	(-8)	-9
スライドギャップ	-14	-7		7

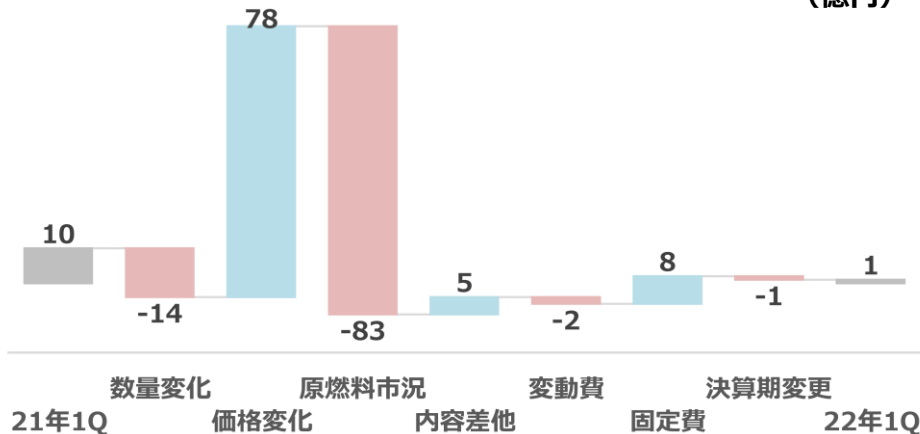
() は前期の決算期変更影響を除く

鋼材売上数量(単体)



営業利益変化要因

(億円)



POINT 1

自動車減産継続により数量減も、鉄屑スライドギャップの縮小や子会社における内容差プラス(為替影響)、固定費の圧縮などにより、1Qの営業利益は1億円となった。

POINT 2

エネルギーコストなどのベース価格改善は計画通り進捗。

機能材料・磁性材料概況

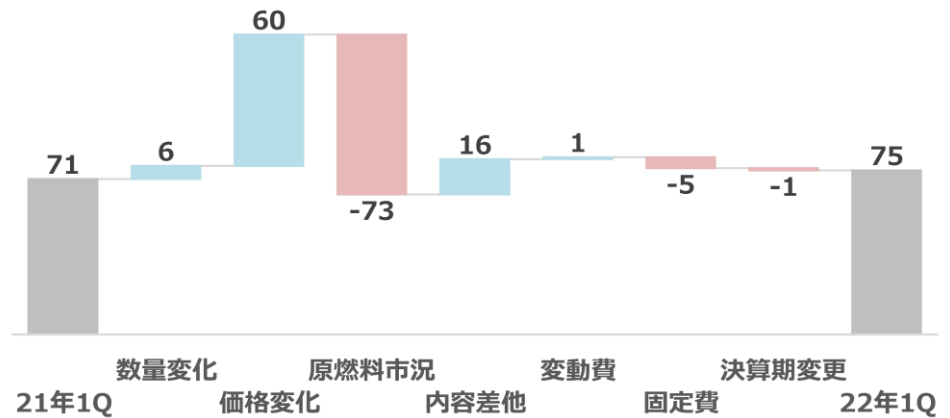
(億円)

	21年 1Q	22年 1Q	前年差	
	a	b	b-a	
売上高	479	544	(+91)	65
営業利益	71	75	(+5)	4

() は前期の決算期変更影響を除く

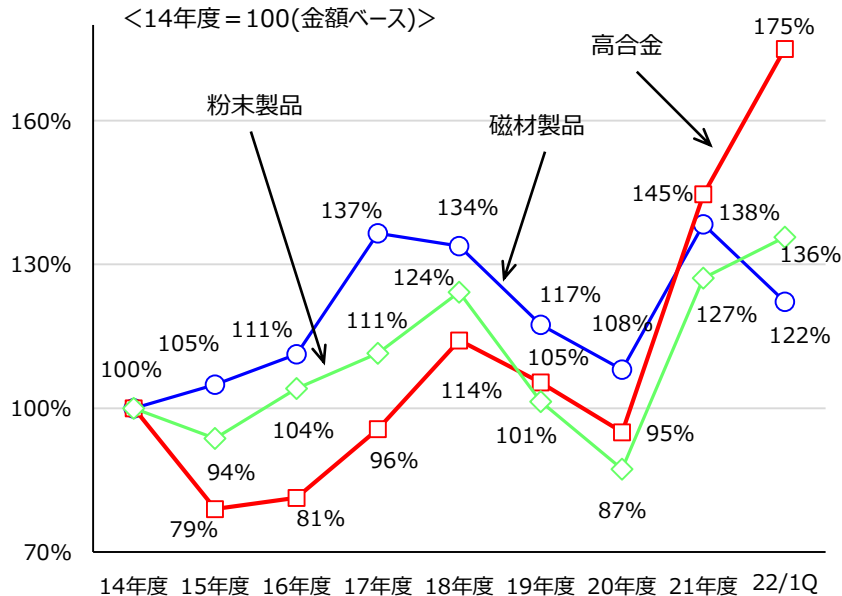
営業利益変化要因

(億円)



<高合金・磁材製品・粉末製品 (売上高)>

<14年度 = 100(金額ベース)>



POINT 1

ステンレスは半導体需要を中心に数量が伸長、また内容構成良化も増益要因に。子会社での在庫評価益もあり1Qの営業利益は75億円となった。

POINT 2

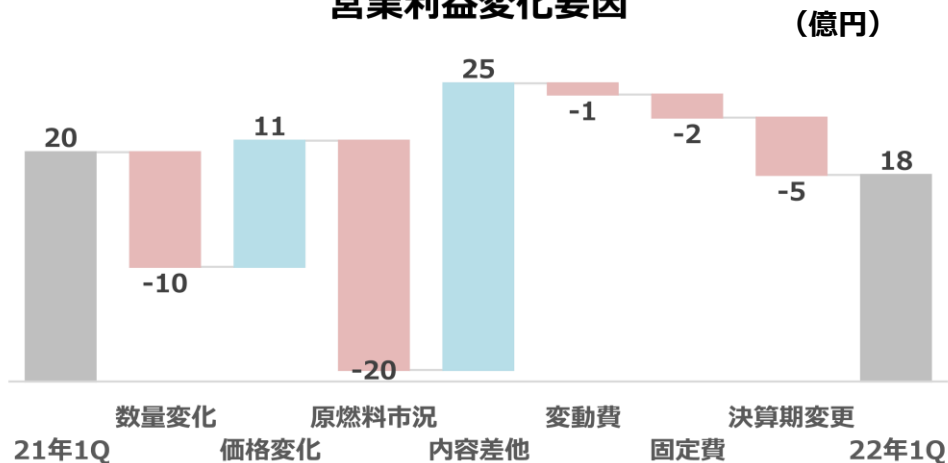
販売価格改善によりマージン改善傾向も、足元のステンレス受注はニッケル先安感による調整局面に。

自動車部品・産業機械部品概況

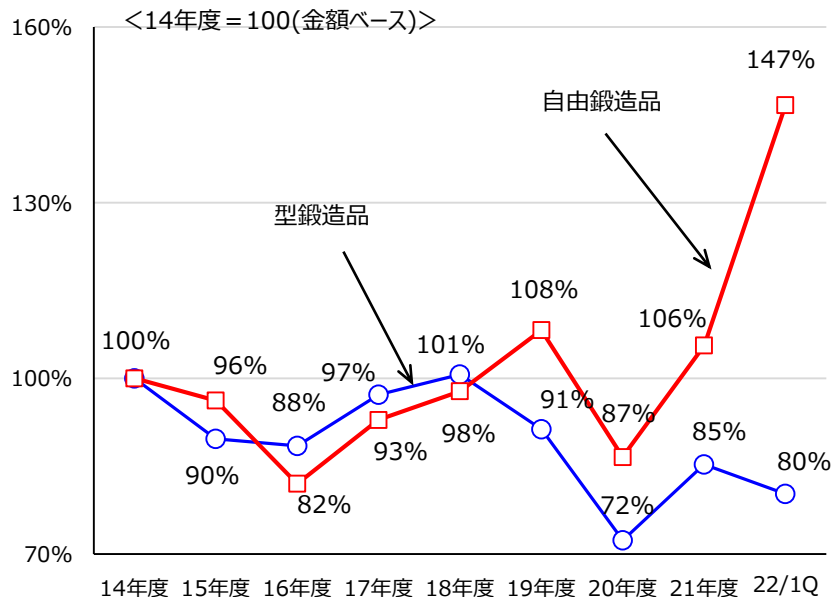
	(億円)		
	21年1Q	22年1Q	前年差
	a	b	b-a
売上高	249	238	(+28) -11
営業利益	20	18	(+3) -2

() は前期の決算期変更影響を除く

営業利益変化要因



<型鍛造品・自由鍛造品 (売上高)>



POINT 1

型鍛造品などの自動車部品は自動車減産に伴い数量減も自由鍛造品で半導体やエネルギー関連などの製品需要が堅調に推移し、1Qの営業利益は18億円となった。

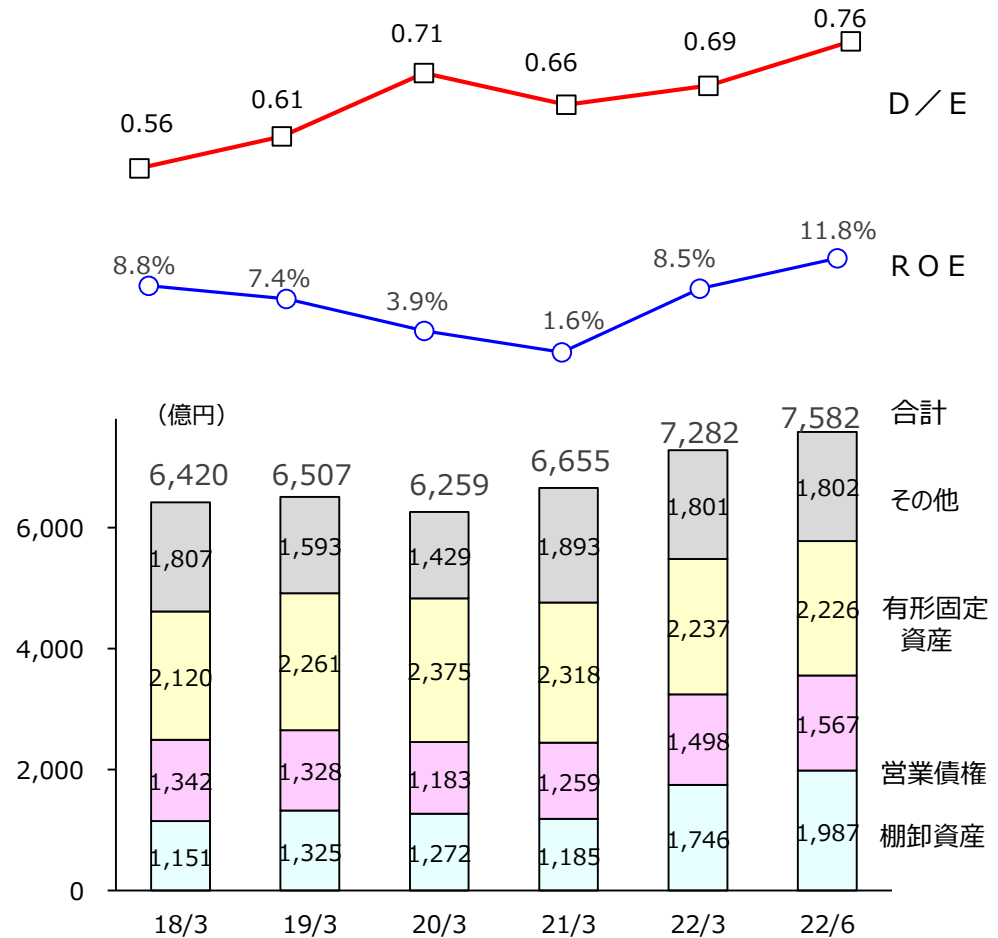
POINT 2

円安環境により足元の自由鍛造品受注は高位継続。最大生産による利益拡大を指向。

■ 総資産、有利子負債、D/Eレシオ

- ・製品内容構成、原材料・エネルギー市況高騰による営業債権および棚卸資産の増加を主要因として総資産は増加。
- ・有利子負債は運転資金の増加を受けて約260億円増加。

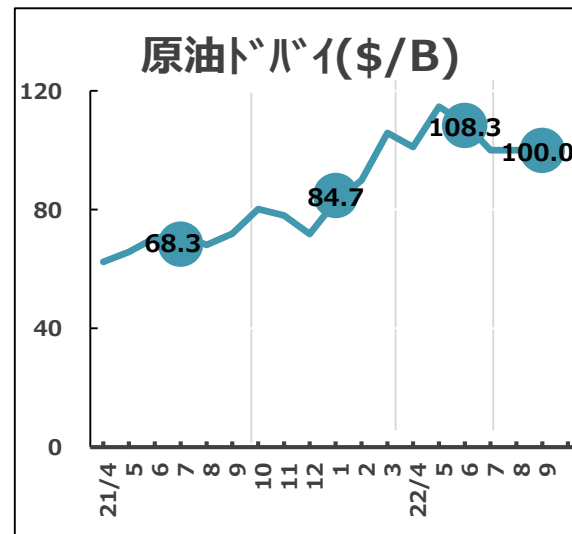
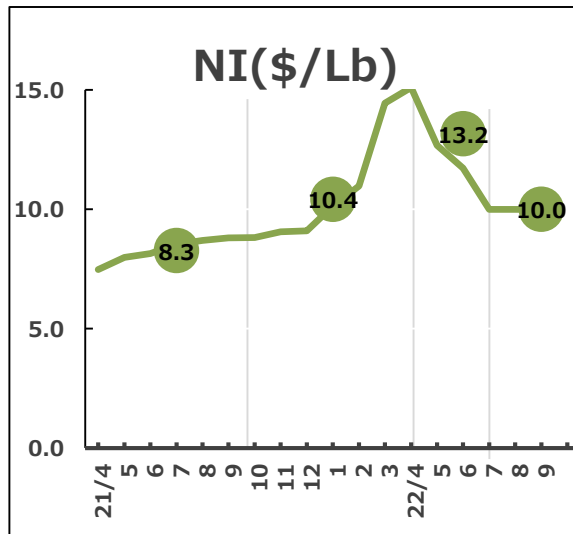
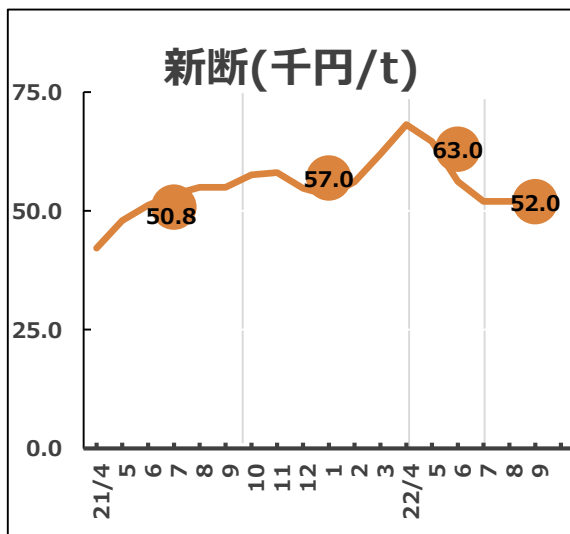
(億円)			
	22/3	22/6	増減
現預金	581	590	9
棚卸資産	1,746	1,987	241
営業債権	1,498	1,567	69
その他	92	96	4
流動資産	3,917	4,240	323
有形固定資産	2,237	2,226	-11
投資有価証券	865	835	-30
その他	263	281	18
固定資産	3,365	3,342	-23
資産 合計	7,282	7,582	300
有利子負債	2,291	2,550	259
その他	1,341	1,313	-28
負債	3,632	3,863	231
株主資本	3,032	3,088	56
その他包括利益累計額	265	270	5
非支配株主持分	353	361	8
純資産	3,650	3,719	69
負債・純資産 合計	7,282	7,582	300



2022年度 上期見通し (2022年4月～2022年9月)

■ 22年上期 利益計画の前提(市況)

			21年度実績	22/1Q実績	22/2Q計画前提	
					当初予想差	
鉄スクラップ	中部 H 2 建値	千円/ t	47.6	55.5	47.0	-14.0
	中部 新断建値		53.9	63.0	52.0	-15.0
ニッケル	LME	\$/ Lb	9.3	13.2	10.0	-4.0
原油	ドバイ	\$/ B	76.6	108.3	100.0	±0.0
為替レート	TTM	円/\$	113.4	129.6	135.0	+15.0



■ 22年度上期 連結業績見通し

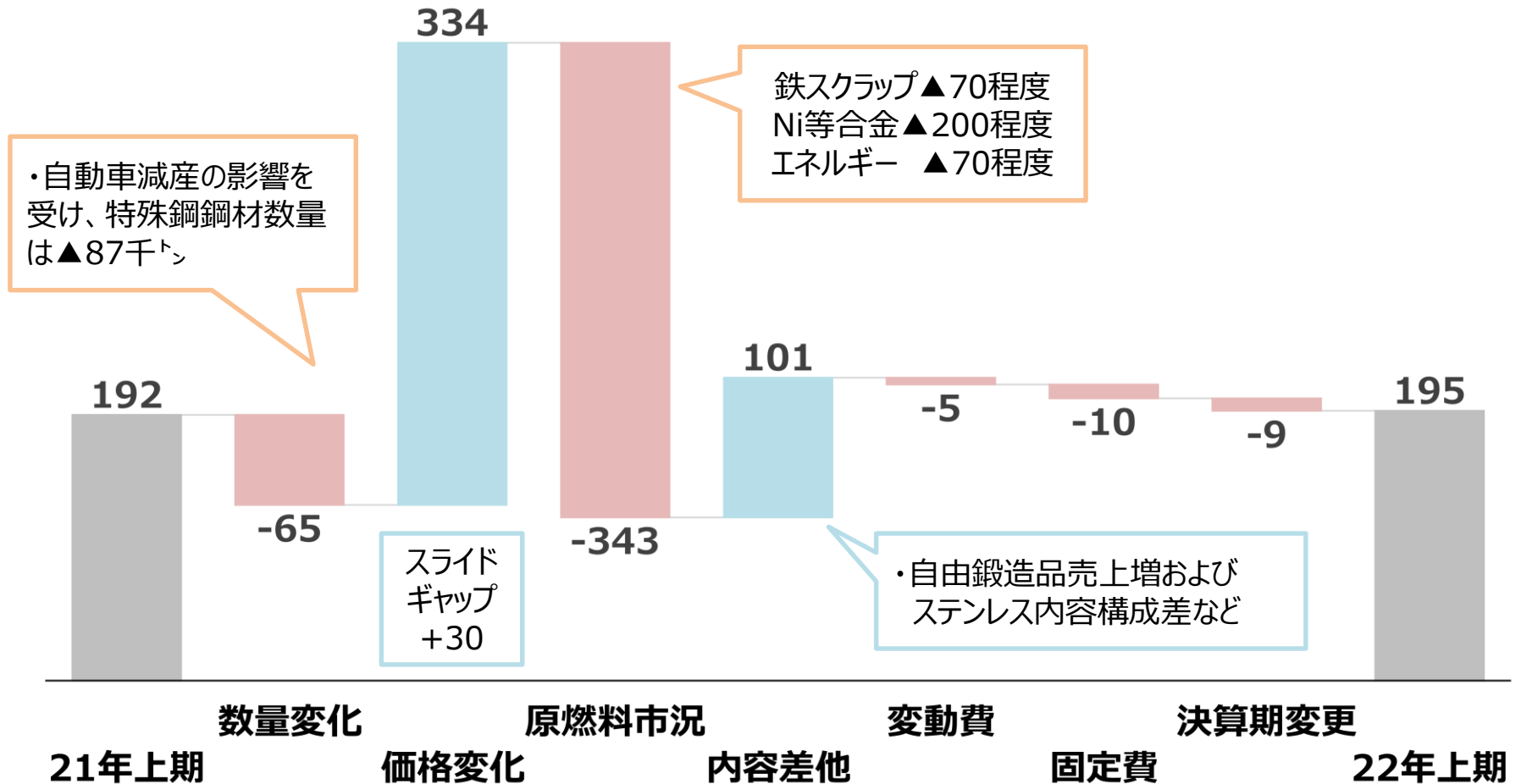
- 鉄スクラップ価格、ニッケル市況が当初予想の前提を下回る水準で推移しており、固定費を中心としたコストも順調に改善。
- 内容差他の良化もあり、上期の業績予想を修正。

	2021年 上期実績			2022年 上期見通し			(千t・億円)	
	1Q	2Q	合計	1Q	2Q	合計	前年差	前回 予想差
	鋼材売上数量	322	312	634	280	267	547	-87
売上高	1,312	1,240	2,552	1,377	1,423	2,800	248	0
営業利益	105	87	192	102	93	195	3	80
経常利益	118	88	206	113	87	200	-6	80
特別損益	0	▲ 4	▲ 4	-	-	-	4	-
法人税他	▲ 42	▲ 32	▲ 74	▲ 14	▲ 31	▲ 45	29	-15
親会社株主に帰属する 当期純利益	76	52	128	99	56	155	27	65

22年上期 営業利益の変化要因(前年同期差)

(億円)

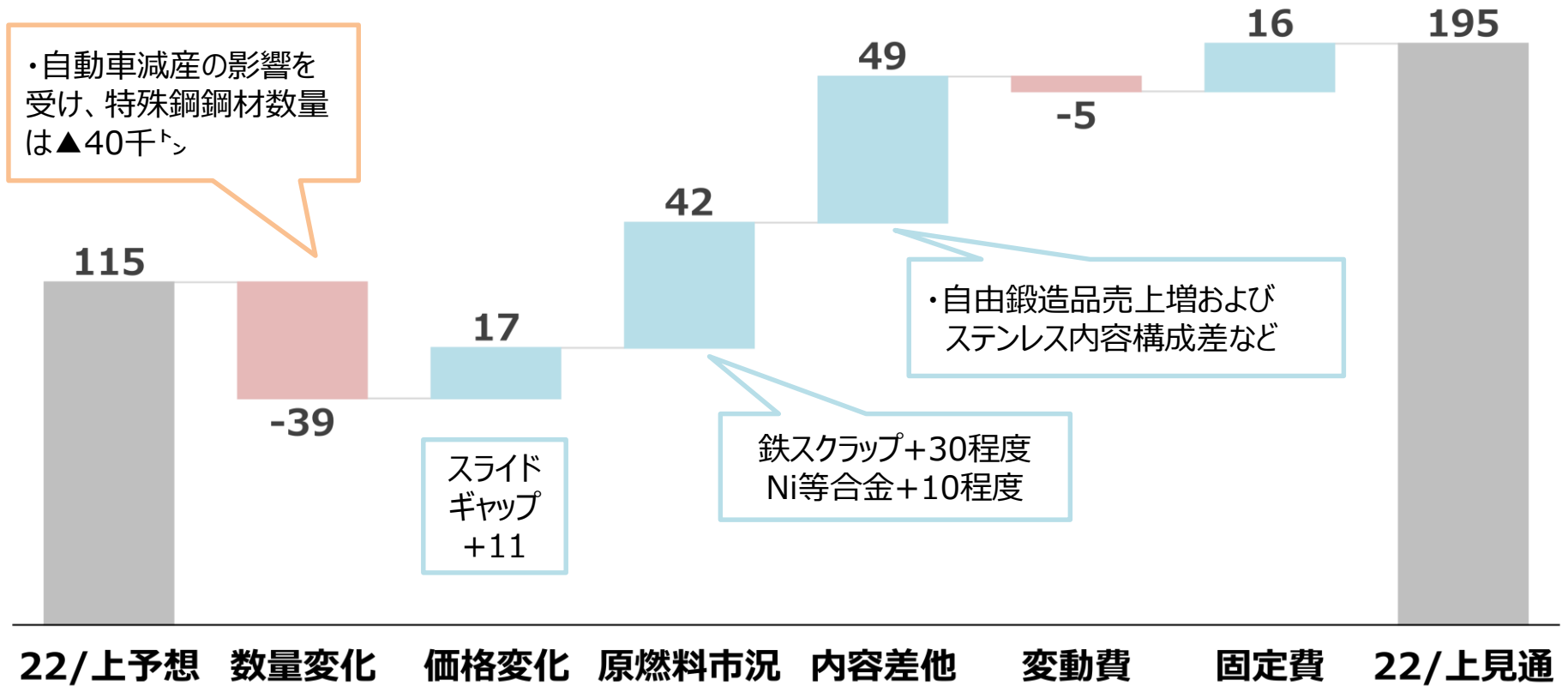
営業利益変化要因 (前年度差)



22年上期 営業利益の変化要因(前回予想差)

営業利益変化要因 (予想差)

(億円)



■ セグメント別売上高・営業利益(前年差・前回予想差)

(億円)

	2021年度実績		2022年度見通し					
	上期		1Q		2Q		上期	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
特殊鋼鋼材	932	15	506	1	515	12	1,021	13
機能材料・ 磁性材料	948	139	544	75	537	55	1,081	130
自動車部品・ 産業機械部品	465	31	238	18	271	15	509	33
エンジニアリング	87	▲ 7	38	▲ 1	49	3	87	2
流通・サービス	120	14	51	9	51	8	102	17
合計	2,552	192	1,377	102	1,423	93	2,800	195

前年差		予想差	
売上高	営業利益	売上高	営業利益
89	-2	1	38
133	-9	-19	10
44	2	9	23
0	9	-8	2
-18	3	17	7
248	3	0	80

(千t)

鋼材売上数量 (単体)	634	280	267	547
----------------	-----	-----	-----	-----

-87	-40
-----	-----

■ セグメント別概況（特殊鋼鋼材・機能磁性・自動車産機）

特殊鋼鋼材

(億円)

	21年 上期	22年上期 前回予想	22年 上期	前年差	当初 予想差
	a	b	c	c-a	c-b
売上高	932	1,020	1,021	89	1
営業利益	15	-25	13	-2	38
スライドギャップ	-33	-14	-3	30	11

POINT

- ・当初予想対比、鉄スクラップ価格の下落および固定費を中心としたコスト改善により損益改善。
- ・ただし、数量面では自動車減産の拡大により、鋼材売上数量は計画対比マイナス。

機能材料・磁性材料

(億円)

	21年 上期	22年上期 前回予想	22年 上期	前年差	当初 予想差
	a	b	c	c-a	c-b
売上高	948	1,100	1,081	133	-19
営業利益	139	120	130	-9	10

POINT

- ・ステンレスの数量は減少も、内容構成の良化およびマージン改善により計画対比増益を想定。

自動車部品・産業機械部品

(億円)

	21年 上期	22年上期 前回予想	22年 上期	前年差	当初 予想差
	a	b	c	c-a	c-b
売上高	465	500	509	44	9
営業利益	31	10	33	2	23

POINT

- ・自動車減産の影響による数量減あるも、自由鍛造品の受注が好調に推移し損益は大幅上振れ。

■ 22年度 連結業績見通し

➤通期予想については、今後電力を始めとしたエネルギーコストの上昇が見込まれることや、下期の受注動向や原材料市況を見通すことが困難であることから、前回予想を変更しておりません。

(千t・億円)

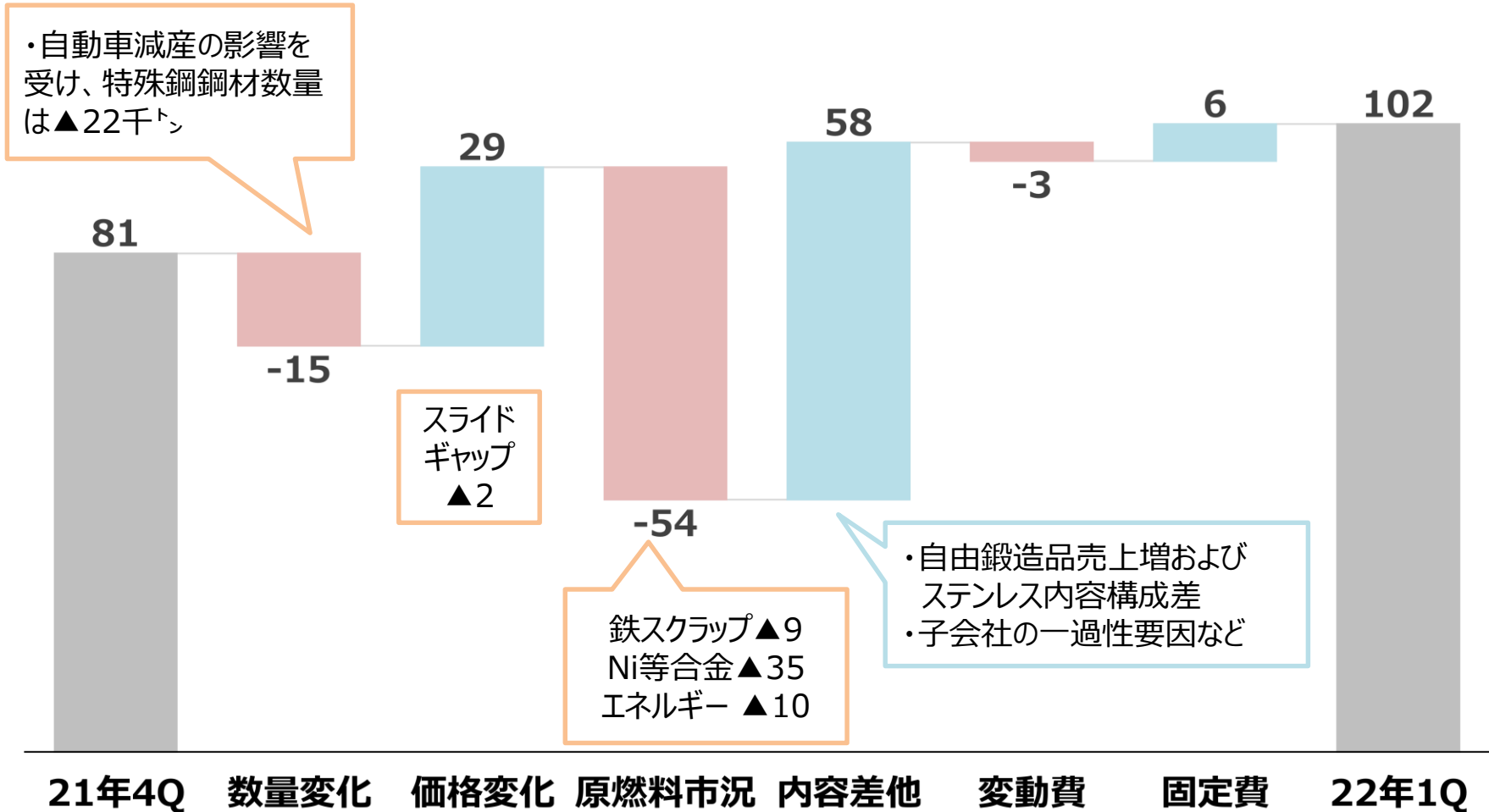
	2021年度実績			2022年度見通し	
	上期	下期	合計	上期	合計
鋼材売上数量	634	619	1,253	547	1,227
売上高	2,552	2,745	5,297	2,800	6,000
営業利益	192	178	370	195	340
経常利益	206	186	392	200	350
特別損益	▲ 4	19	15	-	-
法人税他	▲ 74	▲ 64	▲ 138	▲ 45	▲ 100
親会社株主に帰属する 当期純利益	128	141	269	155	250

参考資料

■ 22年1Q 営業利益の変化要因(前四半期差)

営業利益変化要因 (前四半期差)

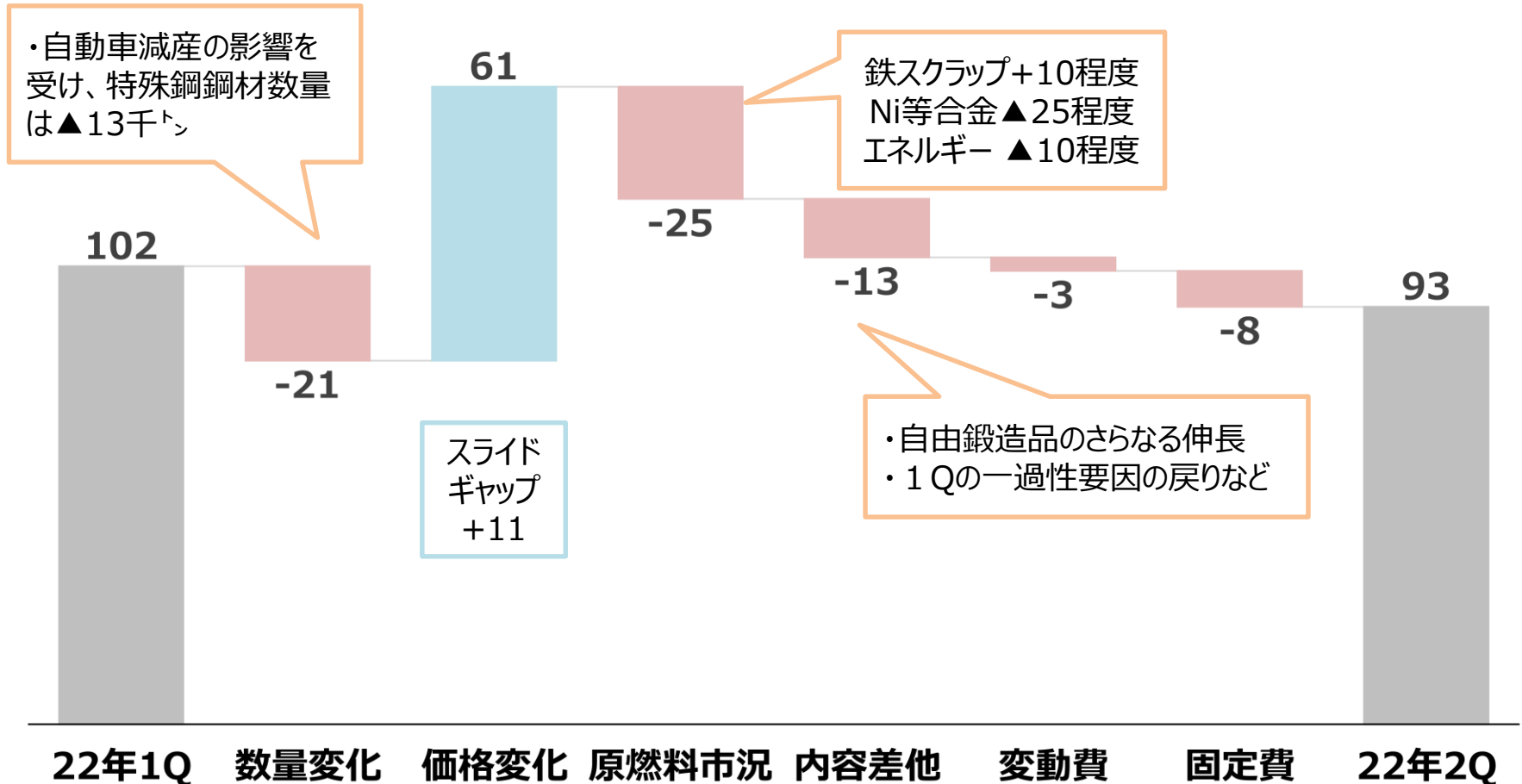
(億円)



22年2Q 営業利益の変化要因(前四半期差)

営業利益変化要因 (前四半期差)

(億円)



(注記)

本資料に記述されております業績見通し等の数値につきましては、現状で判断しうる一定の前提に基づいております。

今後発生する状況の変化によっては異なる業績結果となることも予想されますので、投資等の判断材料として全面的に依拠されることは差し控えて頂きますようお願いいたします。

また今後予告なしに予想数字が変更されることがあります。本資料にある情報をいかなる目的で使用される場合におきましても、各自の判断と責任において使用されるものであり、本資料にある情報の使用による結果について、弊社は何らの責任を負うものではありませんのでご了承ください。